

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	実習で取り付けたボタンと、日常生活の中で使われているボタン見本を比較し、よい点と努力すべき点を互いにアドバイスする。

第3学年3組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○○○

1 題材名 衣服の補修の技術を生かしてエコバッグをつくろう

2 題材の目標

- 布を用いた物の製作や基本縫いの練習に関心をもって取り組み、生活をよりよくしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 布を用いた物の製作において、補修の技術を生かして生活を豊かにするための工夫をしている。
(生活を工夫し創造する能力)
- 安全で効率よく、衣服の補修に関する技術を生かし、布を用いた物の製作をすることができる。
(生活の技能)
- 用具の取り扱い方と衣服の補修に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

衣服が安く手に入る現代社会において、衣服のほつれや破れ等を自分で直して着用したり、着られなくなってしまった衣服も有効に活用したりしようとする意識は低い状況にある。また、衣服の補修の技術に関しても、すべて家族任せにしてしまうなど、生徒たちにとって家庭の中で裁縫をする機会が少なくなってしまうとも言える。衣生活の自立を図るうえでは、基礎・基本となる衣服の補修の技術をしっかりと生徒たちに身につけさせることが不可欠である。具体的な手立てとしては、拡大見本や実物見本を活用したり、ワークシート等を用いて基本縫いの練習や相互に評価し合いながら作業を進める活動を取り入れたりとすることで、実生活に生かすことのできる基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指す。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート（男子 18 名 女子 17 名 計 35 名）

質問項目	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
1 裁縫が好きである	10名	12名	10名	3名
2 衣服の補修を自分でやっている	1名	6名	10名	18名
3 裁縫の技術をもっと身につけたい	18名	13名	3名	1名

本学級の生徒の実態として、裁縫が好きである（「どちらかといえばはい」も含む）と答えた生徒は 24 名（69%）にのぼった。しかし、実際に家で補修をしているかという問いについては、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒が 28 名（80%）と、好きであってもそれが実生活に結びついていない状況が明らかとなった。裁縫（補修）の技術をもっと身につけたいという意識が高いことから、授業の中で多くの経験を積ませ、目的と用途に応じた縫い方を理解することで、家庭での実践につなげられるようにしたい。

(3) 指導観

衣服や小物の製作等、裁縫の活動に最初から苦手意識を抱いている生徒も少なくない。衣服の補修に関わるさまざまな縫い方を拡大見本や実物見本を活用しながら確認するとともに、正しい縫い方と用途に応じた縫い方を知ること、得意な生徒はさらに応用の技術を高めることができる。一方、裁縫が苦手な生徒についても、自分の力で補修をする経験を重ねることにより、達成感が得られ、裁縫へ対する苦手意識の軽減につながると思われる。

4 学習計画（17時間取扱い）

次	時	学習内容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	衣服のはたらきを知ろう	○			○
	2	衣服の手入れの方法を知ろう	○			○
2	2	衣服の補修の技を身につけよう（本時）			◎	○
	1 1	エコバッグをつくろう	○	○	◎	
3	1	作品の紹介をしよう	○	◎		

5 本時の指導

(1) 目標

補修の目的と必要性を知り、正しい方法や手順でていねいにスナップボタンを付けることができる。

(2) 準備・資料

- ・スナップボタン
- ・手縫い糸
- ・拡大見本（スナップボタン）
- ・評価目安見本
- ・作品完成見本
- ・ワークシート
- ・掲示資料
- ・視聴覚資料

(3) 展開（・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価）

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
<p>1 補修の目的を確認し、本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スナップボタンを正しくていねいに付けよう。</p> </div>	<p>◎スナップボタンがどのようなところに使われているか確認し、本時の活動へ関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スナップボタンと同じ方法で付けるカギホックを見せるとともに、スナップボタンの付け方を習得することで実用技能が増えることを伝え、ボタン付けの技能習得への意識の向上を図る。
<p>2 評価の目安について話し合う。</p> <p>(1) 評価の目安になる実物見本を見ながら、ボタンの正しい付け方をグループで話し合う。</p> <p>(2) 評価の基準を確認する。</p>	<p>◎日常生活の中で使われているスナップボタンの見本を見せながら、どのような付け方が好ましいか、主に見た目のきれいさ、じょうぶさの観点を重視して考えるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい付け方、悪い付け方を確認し、本時で目指すべき技能の評価の目安を全体で統一できるようにする。
<p>3 実習内容を確認する。</p> <p>(1) スナップボタンの付け方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボタンの上下の違い ・ボタンを付ける手順 <p>(2) 実習の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの活動・相互評価の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・スナップボタンの付け方について、拡大見本を用いて師範を行い、付け方の手順を理解できるようにする。 ・縫い目の精度や強度、玉結びや玉止めなど糸の処理について互いに確認し合うことを伝え、正確に付けられるように意識付けをする。 ・ペアで互いに評価し合いながら活動を進めることで、ボタンを付ける時の手順や付け方のポイントを押さえて正確にボタンを付けることができるようにする。
<p>4 ペア・グループでの活動を行う。</p> <p>(1) 道具を準備し、スナップボタンを付け、手順について評価をする。</p> <p>(2) 付け方の評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりじょうぶに付ける方法を説明したり、糸のすくい方のポイントを伝えたりしながら、見た目のきれいさを意識するよう声かけをし、技能の向上につなげる。 ・糸をすくう位置や縫い進め方などを個別に助言し、自分の力で付けられるよう支援する。 <p>◎互いに付けたボタンと、日常生活の中で使われているスナップボタンの見本を比較しながらよい点と努力すべき点をそれぞれ確認・アドバイスをし合い、今後に生かすための記録を行うよう伝える。</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想や反省、授業評価を振り返りカードに記入する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>正しい方法や手順で、ていねいにスナップボタンを付けることができる。 (技能：観察・実習布)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友人からの評価を参考にして自己評価を行うことを伝えることで、習得・理解できた内容を具体的に振り返り、さらに技能向上への意欲を高められるようにする。